

85

このかじゆえんのなしはとくべつうまい。

86

86

てんらんかいのえをみにいく。

87

87

いちおくえんのねがつくかちのあるさくひん。

88

88

みずのながれでるみなもとを「げんりゅう」という。

89

89

てん<sup>の</sup>皇のくらいをしりぞくことが「たいい」。

89	88	87	86	85
退	源	値	覧	樹
天皇の位を退くことが「退位」。	水の流れ出る源を「源流」という。	一億円の値がつく価値のある作品。	展覧会の絵を見に行く。	この果樹園の梨は特別うまい。

90

90

げんじゅうに きびしく みはる けいびいん。

91

91

やさしくて、ぎのうも すぐれた ゆう秀<sup>しゅう</sup>な ひと。

92

92

けいかくを おしすすめる すいしんやくになる。

93

93

きちょうひんは きんこに しまう。

94

94

環<sup>かん</sup>きようもんだいの かいけつさくを かんがえる。

94	93	92	91	90
策	貴	推	優	厳
環境問題の解決策を考える。	貴重品は金庫にしまう。	計画を推し進める推進役になる。	優しくて、技能も優れた優秀な人。	厳重に厳しく見張る警備員。

たしかめ

20

名 前

95

95

もとのかたちをちぢめて描<sup>か</sup>いた<sup>が</sup>「しゅく<sup>ず</sup>」

96

96

てつぼうのさかあがり<sup>が</sup>できた。

97

97

柿<sup>かき</sup>の<sup>み</sup>が<sup>う</sup>れて<sup>ま</sup>っかに<sup>じ</sup>ゅくした。

98

98

巻<sup>ま</sup>き<sup>じ</sup>ゃくで<sup>ご</sup>じゅうメートル<sup>を</sup>は<sup>か</sup>る。

99

99

すんぽう<sup>を</sup>は<sup>か</sup>ったら<sup>お</sup>なじ<sup>な</sup>が<sup>さ</sup>だった。

99	98	97	96	95
寸	尺	熟	棒	縮
寸法を測ったと同じ長さだった。	巻き尺で五十メートルを測る。	柿 <sup>かき</sup> の実が熟れて真っ赤に熟した。	鉄棒の逆上がりができた。	元の形を縮めて描いた図 <sup>か</sup> が「縮図」。

100

せんせい<sup>の</sup>しき<sup>に</sup>あわせて<sup>が</sup>つしよう<sup>する</sup>。

101

あし<sup>を</sup>いた<sup>め</sup>、うごく<sup>と</sup>げきつ<sup>う</sup>が<sup>は</sup>し<sup>る</sup>。

102

あた<sup>た</sup>かい<sup>ひ</sup>ひよう<sup>の</sup>こと<sup>ば</sup>を<sup>も</sup>ら<sup>っ</sup>た。

103

き<sup>ず</sup>ぐ<sup>ち</sup>が<sup>あ</sup>さ<sup>く</sup>、けい<sup>し</sup>よう<sup>で</sup>済<sup>す</sup>ん<sup>だ</sup>。

104

ゆ<sup>め</sup>と<sup>き</sup>ばう<sup>に</sup>み<sup>ち</sup>た<sup>わ</sup>か<sup>も</sup>の<sup>た</sup>ち。

104	103	102	101	100
若	傷	批	痛	揮
夢と希望に満ちた若者達。	傷口が浅く、軽傷で済んだ。	温かい批評の言葉をもらった。	足を痛め、動くと激痛が走る。	先生の指揮に合わせて合唱する。



105

へいえんの  
じこくが  
きたので  
もんを  
とじる。

106

せかいいさんに  
とうろくされた  
ふじさん。

107

うんどうかいの  
よくじつは  
からだが  
おもい。

108

たてと  
よこ、  
じゅうおうに  
はしる  
とかいの  
どうろ。

109

やまの  
いただきを  
「さんちよう」という。

109	108	107	106	105
頂	縦	翌	遺	閉
山の頂を「山頂」という。	縦と横、縦横に走る都会の道路。	運動会の翌日は体が重い。	世界遺産に登録された富士山。	閉園の時刻が来たので門を閉じる。

たしかめ

23

名前

110

110

おやの  
いっ  
つけを  
ちゅう  
じつに  
まもる。

|||

|||

まことのこころを込め、せいをもってとりくむ。

112

112

てきとみかたにわかれてたたかう。

113

113

かいこから  
きいとを  
とる  
ようさんぎよう。

114

114

それは じこまんぞくにすぎない。

114	113	112	111	110
己	蚕	敵	誠	忠
それは自己満足に過ぎない。	蚕から生糸を取る養蚕業。	敵と味方に分かれて戦う。	誠の心を込め、誠意を持って取り組む。	親の言いつけを忠実に守る。

115

じよせつ・じよそう、じよは「とりのぞく」といういみ。

116

じんぎを おもんじた せんごくぶ将<sup>しやう</sup>。

117

みずの 湧<sup>わ</sup>きでる いずみ。その みずが あついと おんせん。

118

おもてと うら、うらがわを 「りめん」という。

119

かなりたちを けいとうだてて せつめい。

119	118	117	116	115
系	裏	泉	仁	除
成り立ちを系統立てて説明。	表と裏、裏側を「裏面」という。	水の湧き出る泉。その水が熱いと温泉。	仁義を重んじた戦国武将。	除雪・除草、除は「取り除く」という意味。

1 2 0

1 2 0

にほんはこくさいれんごうのかめいこくだ。

1 2 1

1 2 1

よくばって、なんでもほしがるいもうと。

1 2 2

1 2 2

きのきりかぶにことりがとまる。

1 2 3

1 2 3

ぜんあくのはんだんはしっかりつけよう。

1 2 4

1 2 4

とうこうはんのはんちようにえらばれた。

1 2 4	1 2 3	1 2 2	1 2 1	1 2 0
班	善	株	欲	盟
登校班の班長に選ばれた。	善悪の判断はしっかりつけよう。	木の切り株に小鳥が止まる。	欲張つて、何でも欲しがる妹。	日本は国際連合の加盟国だ。



125

あぶないぞ。そこは きけんだ、ちかづくな。

126

しごとの やくわりぶん担<sup>たん</sup>を きめる。

127

がつきゅうかいで ぎあんが ひけつされた。

128

いたって おずかしいことを 「しなんの わざ」という。

129

きたくしたとき、たくはいびんが とどいた。

1 2 9	1 2 8	1 2 7	1 2 6	1 2 5
宅	至	否	割	危
帰宅した時、宅配便が届いた。	至って難しいことを「至難の技」という。	学級会で議案が否決された。	仕事の役割分担を決める。	危ないぞ。そこは危険だ、近づくな。

130

りょうりのしあげにさとうをくわえる。

130

131

べにいろにもみじのはっぱがこうようする。

131

132

たまごのなかみはらんおうとらんぱく。

132

133

ちちを<sup>しば</sup>搾るためにそだてたにゅうぎゅう。

133

134

がっこうがつくられたひがそうつきねんび。

134

1 3 4	1 3 3	1 3 2	1 3 1	1 3 0
創	乳	卵	紅	糖
学校が創られた日が創立記念日。	乳を搾 <small>し</small> るために育てた乳牛。	卵の中身は卵黄と卵白。	紅色にもみじの葉っぱが紅葉する。	料理の仕上げに砂糖を加える。

たしかめ

28

名前

135

[illegible]

おんがくかいで  
きがくがっそうを  
はっぴよう。

136

[illegible]

136  
きょうはわたしのたんじょうび。

137

[illegible]

137 ひんこんでこまっているひとびとをたすける。

138

[illegible]

138  
い  
ろ  
ん  
な  
か  
ん  
ば  
ん  
が  
な  
ら  
ぶ  
し  
よ  
う  
て  
ん  
が  
い。

139

[illegible]

139  
せすじを伸のばし、きん骨こつたくましいわかもの。

139	138	137	136	135
筋	看	困	誕	奏
背筋を伸 <small>の</small> ばし、筋骨たくましい若者。	いろんな看板が並ぶ商店街。	貧困で困っている人々を助ける。	今日は私の誕生日。	音楽会で器楽合奏を発表。

140

せいだいにパーティーひらかれもりあがる。

140

141

からだをささえるほねぐみが「こっかく」。

141

142

まきものは、いっかん、にかとかぞえる。

142

143

きんぎんのざいほうをまん載さいしたたからぶね。

143

144

しがけんのきょうどりようりの鮒いなずし。

144

144	143	142	141	140
郷	宝	卷	骨	盛
滋賀県の郷土料理の鮎 <sup>ふなず</sup> 寿司。	金銀の財宝を満載 <sup>さい</sup> した宝船。	巻物は、一卷、二巻と数える。	体を支える骨組みが「骨格」。	盛大にパーティー開かれ盛り上がる。



145

めうえのひとをうやまい、けいごではなす。

146

ひそかにつたえられたしんぴのでんせつ。

147

じんじやのけいだいはしんせいなばしよだ。

148

きぬいどのようなすじぐもを「けんうん」という。

149

れいはいどうで、こころしずかにかみをおがむ。

149	148	147	146	145
拝	絹	聖	秘	敬
礼拝堂で、心静かに神を拝む。	絹糸のような筋雲を「絹雲」という。	神社の境内は神聖な場所だ。	秘かに伝えられた神秘の伝説。	目上の人を敬い、敬語で話す。

150

こうはんは、たんそをまぜてつくったはがねのいた。

151

しばうじこのげんいんをきゆうめいする。

152

はれたひにせん濯<sup>たく</sup>ものをほす。

152

153

みんしゅうのちからでへいわをまもる。

153

154

かきとめそくたつのゆうびんがとどく。

154

154	153	152	151	150
郵	衆	干	亡	鋼
書留速達の郵便が届く。	民衆の力で平和を守る。	晴れた日に洗濯物を干す。	死亡事故の原因を究明する。	鋼板は、炭素を混ぜて作った鋼の板。

155

しごとのちんぎんが  
あがる。

155

156

おやこうこう、したい  
ときにはおやはなし。

156

157

「よきん」はぎんこうに  
おかねをあずけること。

157

158

こくもつをしゅうのうこに  
おさめる。

158

159

こめだわらをいっぴよう  
担<sup>かつ</sup>げたらいちにんまえ。

159

159	158	157	156	155
俵	穀	預	孝	賃
米俵を一俵担げたら一人前。	穀物を収納庫に収める。	「預金」は銀行にお金を預けること。	親孝行、したい時には親は無し。	仕事の賃金上がる。

たしかめ

33

名前

160

[illegible]

160

つうやくをもらい、わけがわかった。

161

[illegible]

161

ぼう却とは、わすれさることだ。

162

[illegible]

162

だんとうで あたたかく ゆきも すくない ことしの ふゆ。

163

[illegible]

163

うたのかしをかみにかいておぼえる。

1 6 3	1 6 2	1 6 1	1 6 0
詞	暖	忘	訳
歌の歌詞を紙に書いて覚える。	暖冬で暖かく雪も少ない今年の冬	忘却 <small>きやうく</small> とは、忘れ去ることだ。	通訳をしてもらい、訳が分かった。